

# 「生活科・総合的な学習の時間で、地域課題を地域の方と共に解決していく 探究的な授業の展開」～互いの実践に学ぶ職員研修の新たな視点～

## 実践内容

境小学校では、生活科・総合的な学習の時間についてそれぞれの学年の先生と子どもたちが 探究を重ねてきました。全学年で取り組んできましたが、地域課題や地域題材を使って学習してきた2、4、6年生の実践を発表します。

### （2年生）境郵便局を開こう

国語の学習で、絵手紙の製作を行い、家族や親戚への残暑見舞いを投函した。郵便に興味をもった子どもたちは、図書資料や映像資料などを用いて郵便のしくみを調べた。すると「自分たちでも郵便局を開設したい」という願いをもち、動き始めた。

まず、牛乳パックを原料とした紙すきはがきの製作に取り組んだ。全校に向けて、自分たちで境郵便局を開設し、約1ヶ月間、はがきの製作、はがき・切手の販売・はがきの収集と配達を行った。途中2回ほど、活動が停滞する時があったが、そのつど活動を再度盛り上げるために話し合い、新たな工夫を提案し、実施することができた。



### （6年生）井戸尻考古館を盛り上げよう

アントレプレナーシップ教育として町に用意していただいた10万円を資金に、地域課題を解決する学習を進めた。子どもたちは、井戸尻考古館を盛り上げるために、考古館に合ったキャラクターを考えたり、キャラクターのグッズをカプセルトイとして販売したりしてきた。

また、実際に考古館で土器について学芸員さんから詳しく教えてもらったことを生かして、キャラクター作りを行った。夏休みに自分から進んで考古館に足を運び、キャラクター作りに励んでいる児童もいた。考古館の方、保護者に協力してもらい、クオリティの高いキャラクターを完成させることができた。自分で作ったことでキャラクターに対して強い思い入れをもち、町のイベントで宣伝したり、グッズを販売したりすることができた。今後もこのキャラクターを井戸尻考古館で使っていただくために、どのようにすればいいか考えている。



### 職員研修（三つの視点での研修）

上越教育大の河野先生、南信教育事務所の南波先生、学びの改革支援課の小川先生の3名の先生方から授業のご指導をいただいたり、職員研修を重ねたりしてきた。河野先生からは、生活科・総合的な学習の時間の授業の展開や方向性など、学習材の見方・考え方について教えていただいた。南波先生には、授業の様子から子どもたちの探究している姿や学習の成果を価値付けていただいた。小川先生には、職員自身の考え方を捉え直したり、確認したりする研修を行った。職員同士で互いの実践を聞き合い、話し合う活動を通して、職員自身の探究的な学びについて考える対話的な研修を行ったり、子どもが探究している姿を作るにはどうしたらよいかについて講話をいただき考えたりした。

## 成果と課題

- ◎子どもが主体的に学ぶ環境を整えるための、組織的な研究・研修を深めることができた。
- ◎3名の専門家による多角的な指導を、職員間の対話と省察を通して融合することができた。これにより、学校全体として「子どもの探究」を支える指導力と実践力が向上した。
- ◎年度初め、2学期初め、2学期終わり、1年間のまとめの時期など学習のポイントになる時期に講師にご指導をいただくことにより、各学年年間の見通しをもちながら学習を進めることができた。
- ◎授業や学習方法についての研修が今まで主流で多かったが、職員自身の考え方に焦点を絞った研修を取り入れることで、若手からベテランの先生それぞれの視点で、それぞれのステージでの考えの捉え直しをすることができた。
- △年度初めに、担任が題材をどうするのか見通しをもったり、学習を深めていくかを考えたりしていくことをどう位置づけていくか。